

◎ 評価対象分野・施策の方針

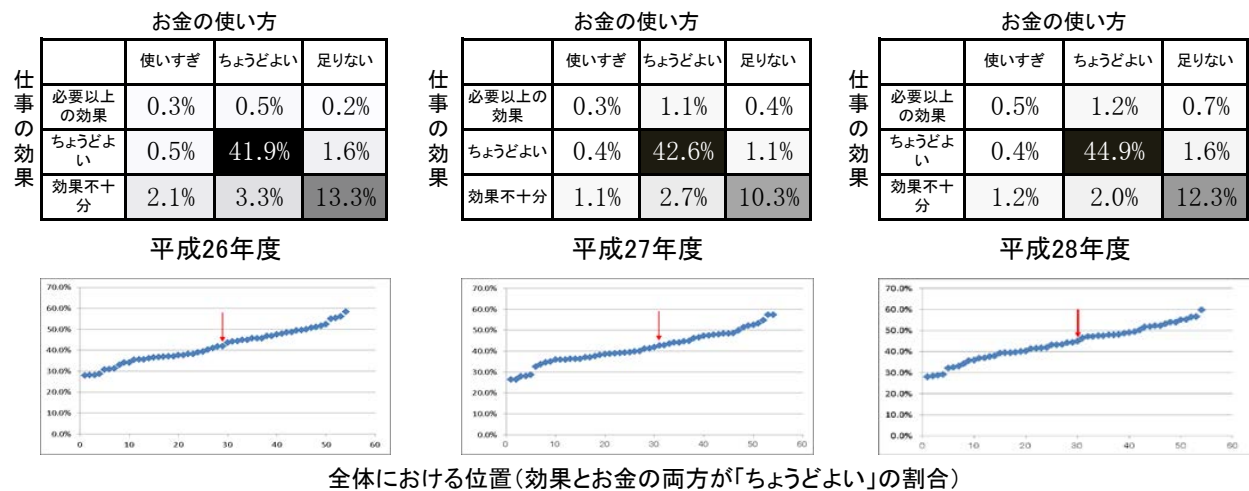
総合計画上の位置付け	分野	下水道・河川	施策の方針	下水道資源の有効利用
------------	----	--------	-------	------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	29.4%	平成27年度	33.6%	平成28年度	30.0%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



<妥当性の分析>

平成28年度の結果として、仕事の効果、お金の使い方ともに「ちょうどよい」の数値が44.9%ともっとも高くなっているが、仕事の効果については「効果不十分」、お金の使い方については「足りない」が12.3%、次に「効果不十分」、「ちょうどよい」が2.0%となっており、もっと力を入れるべきとの意見もある。

仕事の効果とお金の使い方の両方が「ちょうどよい」と答えている人の割合は、施策の方針等全54件の中では、比較的中間の値となっており、経年的には、これらの傾向にあまり大きな変化は見られない。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	18.3%	45.5%	1.6%	34.6%	100.0%
平成27年度	17.3%	41.9%	1.7%	39.1%	100.0%
平成26年度	19.6%	42.9%	2.4%	35.1%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

①引続き下水道資源の有効活用について検討を行う。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
	事業なし			2,335		0.3			

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

①汚泥焼却灰について、引続き建築用資材として有効利用を図った。また、中水の利用についても、引続き武道館のトイレ用水や場内の機械洗浄用水として利用した。

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	☒ 適切	☐ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	☒ 適切	☐ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

汚泥焼却灰を建築資材として利用することで処分の費用の低減に努めた。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

汚泥焼却灰については、引続き建築用資材として有効利用を図り、中水の再利用については、継続して検討する。
用地や施設の一部を活用した太陽光発電、小水力発電については、現段階では、費用対効果が得られないため今後の社会情勢や技術革新を注視していく。
また、処理場の建物上部のスポーツ施設の整備は、スポーツを所管するセクションの検討に協力する。
さらに、山崎浄化センター未利用地がごみ焼却施設の建設候補地となっているため、両施設での資源の有効利用を検討していく。

4 平成29年度の目標

①引続き下水道資源の有効活用について検討を行う。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	事業名								
指標の内容					単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31		
	目標値								
	実績値								
	達成率								

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・終末処理場等の建物上部の多目的利用の実現が求められる。
- ・結果に対する原因・理由が明確でないため、評価できない。情報公開のあり方を考えることが求められる。

提言

- ・中水の有効活用については更なる折衝・再検討を進めたい。JRの事例はかなわなかったとあるが、今後も民間などと協力をして模索すべきである。
- ・下水道資源を有効活用する施策は広く市民に知られていないため、広報活動を進め、市民への周知を図るべきである。
- ・洗車場を作って中水を利用することはできないか検討すべきである。

指摘への対応、コメント等

- ・建物上部のスポーツ施設の整備は、スポーツを所管するセクションに協力する。
- ・現段階では、未利用エネルギーの活用については、費用対効果を得ることが難しいのが現状である。

提言に関するコメント等(総論)

未利用エネルギーの活用について、中水の場外での利用、小水力発電、太陽光発電等について検討してきたが、いずれも費用対効果を得ることが困難であり、今後の技術革新により、実用化が可能となった段階で市民への周知を図りたい。

また、浄化センター用地は、下水道事業を行う目的で国の補助金を活用して購入した土地であり、浄化センターの中に洗車場を設けることは、目的に反するため国の承認は得られない。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・汚泥焼却灰を建築用資材として有効利用した。
- ・管路施設内堆積物の除去、伏越箇所の浮遊物・堆積物の除去・清掃、蓋の不具合による振動・騒音の解消及び破損した取付管等の修繕や布設替えを実施した。
- ・今後の処理場の建物上部のスポーツ施設の整備と山崎浄化センター未利用地の有効利用に期待する。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	1	↘	2	→	5	→
効果	○	1	△	3	—	4	—

《課題》

- ・指標を設定すべきである。建築用資材として有効利用を図ったのであればそのデータを指標にできる。
- ・未利用エネルギーの活用については、費用対効果を得ることが難しいのであれば、根拠などを示していただきたい。
- ・処理場の建物上部のスポーツ施設の整備と山崎浄化センター未利用地の有効利用の検討状況が分からない。
- ・積極的に行うべき事業であるが、事業経費も担当者もいない中で、どの様に推進していくのか。

《提言》

- ・職員数0人でどうやって取組が行われたのか、職員数の配分を考えていただきたい。
- ・「中水の有効利用」の他自治体の事例を聴取し具体策をまとめていただきたい。

《質問》

- ・「汚泥焼却灰の建築資材としての利用で処分費用の低減に努めたとあるが、具体的な金額は掌握してないのか。